

平成30年6月30日

東京農業大学第三高等学校
東京農業大学第三高等学校附属中学校
校長 板垣啓四郎様

東京農業大学第三高等学校
東京農業大学第三高等学校附属中学校
学校評価委員会委員長 高橋直樹

平成29年度 「学校関係者評価」について

東京農業大学第三高等学校・同附属中学校（以下、学校という）から提示された「自己評価」等の関係書類の説明・報告を受け、学校評価委員会として、学校関係者評価を実施しました。委員会としての意見をまとめ、以下のように報告・提言いたします。

1 農大三高・三中の「学校改革」について

平成29年度は、平成27年度に東京農業大学第三高等学校・同附属中学校内に設置された「改革改善委員会」から提出された「答申」に基づき設置された新コース制のもとで、改革改善案が実行に移されたとの詳細な報告が学校よりありました。

- (1) 新コース制〔Ⅰコース（進学重視）、Ⅱコース（文武両道）、Ⅲコース（スポーツ科学）、中高一貫コース、の4コース制〕への改変2年目を終え、それぞれのコースで特色ある教育がなされたこと。
- (2) 進学実績として、平成27年度に引き続き東京大学に現役合格したこと。
- (3) 各教科が作成したシラバスに基づき、生徒の学力向上が図れる指導を実践したこと
- (4) 改革を実現していく教員の授業力向上のためのFD（Faculty Development）の実施したこと。
- (5) クラブ活動の活性化が図れるよう側面からバックアップしたこと

これらの改革改善の実施状況に対して、本委員会としても理解し助言していくことを表明しました。委員会として、これからも学校改革がどのように進展していくのか注視し様々な提言をしていく所存です。

2 進路指導の充実（進路実績の向上）について

平成29年度においては、東京大学をはじめとして国公立大学の総合格者数が増加したこと（平成29年度15名、平成27年度14名）等の報告がありました。

最難関国公立大学現役合格については東京大学に平成27年度に引き続き合格者を輩出したことは評価できるが、難関私立大学（早慶上理、GMARCH等）の合格者数が伸び悩んだ点（平成29年度は91名、平成28年度106名）は、3年以上合格実績向上を継続していかないと進学校としてのステータスは確立しにくいことや、クラス編成のあり方、3カ年(中高一貫コースは6年間)を見通しての指導マニュアルの作成と実施などの必要性について助言をしました。これからも、一人ひとりの生徒が進路実現を図れるように、熱意を持って指導していただければと思います。

3 教員の授業力向上について

先生方は、生徒による「授業アンケート」や校内実施の研究授業・授業参観、外部研修会への年2回の必修参加、さらに平成27年度から実施のFDも継続して行い、様々な角度から自己研鑽に励み各自の授業力の向上に努めていると思います。結果として高校1年生、高校2年生、中学生を中心に模擬試験の結果も上昇傾向にあり、今後も、常勤のみならず非常勤の先生方も含めて一層授業力・指導力の向上に取り組むようにしてください。

4 クラブ活動の活性化について

クラブ活動については、学校の活力を内外に示していくために、さらなる活性化が望まれます。近隣市町村の中学校の中には公立志向が高まっているところもあります。学校の名を高め安定的な生徒募集につなげるためにも文化部も含めたクラブ活動の強化に努めてください。選手(生徒)募集・施設面での充実等の様々な支援を保護者会・後援会等の組織に働きかけることも学校が一体となってクラブ活動を支援していく雰囲気づくりには有用です。平成27年度にⅢコース(スポーツ科学)を設置したことは、「強化クラブ」の強化・充実を図ることを改めて学校方針にしたと理解できます。そのための具体策についてもより一層の検討があってもよいのではないかと思います。運動部にとどまらず、吹奏楽部・演劇部・応援団チアリーダー部など実績を向上させている部活動による学校周辺の自治会等地域社会での諸行事への参加をより拡大させていくことも肝要かと思えます。

5 生活指導について

学校から、スマホ等によるSNS(ラインなど)の問題・交通マナー(特に自転車乗車マナー)の二点について、生活指導上の問題として報告がありました。

SNSに関連して、学校としては入学当初に「スマホ携帯安全教育」、担任による指導等を行っていることですが、さらに指導の充実が望まれます。

また、生徒の交通法令遵守・マナーの問題等に関しても、地域住民からの指摘・苦情もあるのですから、生徒への指導の徹底と保護者の理解が必要であると思えます。学校としてさらに指導の充実を図ってください。

6 三高・三中の受験者・入学者の確保について

三高に関しては、新コース制2年目を迎えた中で学則定員400名に対して351名、三中は学則定員70名に対して43名の入学者で中高とも定員を満たせず、受験者数・入学者数とも厳しい状況があるとの報告がありました。あわせて、平成30年度に向けて、中学・高校共通の取り組みとして広報活動の見直し(具体的には受験雑誌・新聞広告等への広告チラシの増加など)、高校では説明会内容の見直し、イベントのネット予約制度の導入等、中学ではイブニング説明会の開催場所や開催時期の見直し等の対策案についても説明がありました。

2年続きの入学手続き者数の減少について、より深刻に受けとめ、進学実績、クラブ活動の活性化、施設の改善、そして特色ある生徒の育成など、これまで以上に三高・三中とも学校の方針・特色・教育内容を積極的にアピールしていく必要があると思えます。公開市民講座を閉じた中、地域の小中学生に向け開かれた学校であることを発信していく姿勢を高めるよう努め、三高・三中ともに入学者の量と質を確保するように学校として取り組んでください。

学校評価委員会としては、学校の教育活動の充実のため、今後とも積極的に学校に提言していきたいと考えております。